



ひろさき



弘前城築城400年祭まで

あと47日

編集発行 弘前市市民環境部広報広聴課 No. 114

平成22年 11月15日号
(2010)

特 集

公共交通を考える 地方鉄道編 P. 2

●市 政／市民生活センターの相談窓口ほか P. 6

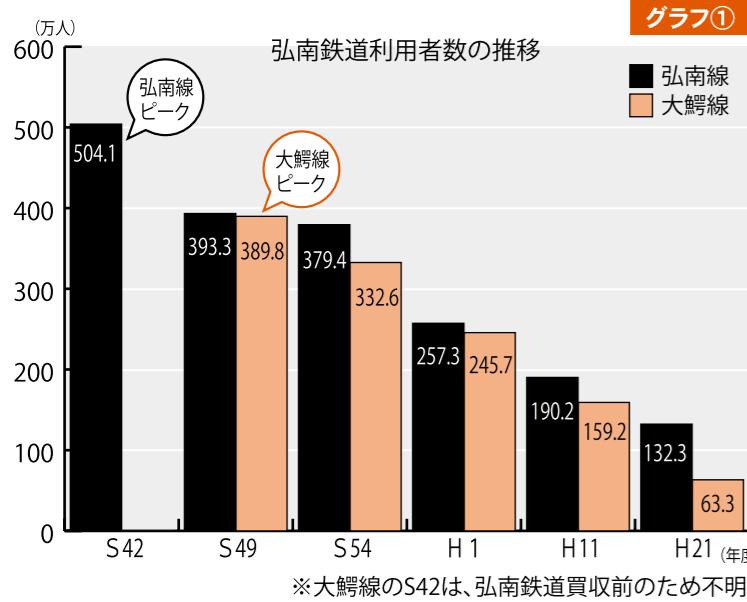
●話 題／たか丸くんが行く!!、弘前写真館 P. 10

●お知らせ／催し、教室など P. 12

●健 康／女性特有のがん検診推進事業 P. 19

雪処理の手引き





一方、昭和24年に設立された弘前電気鉄道は、3年後の昭和27年に市内2路線目となる私鉄として、弘前市を中心部と大鰐町を結ぶ大鰐線を開業しました。しかし、バス路線が競合していたこともあり、経営不振が続いた弘前電気鉄道は、昭和45年、経営権を弘南鉄道に譲渡することになりました。

こうして弘南鉄道は今日に至るまで、弘南線（弘前（黒石）と大鰐（中央弘前（大鰐）の2つの路線）の運行を維持し、住民の生活を支えてきました。それは単に交通手段としてだけではなく、弘前市と周辺市町村を結ぶ動脈として、地域の発展に

大正15年に産声をあげた弘南鉄道は、昭和2年に弘前（尾上）間を開業し、本格的に鉄道会社としてスタートしました。以前から、当市は多くの学校を有する学都であり、市の周辺から通学する学生の交通手段として、鉄道はなくてはならないものでした。その後、終戦を境に石炭不足に陥った弘南鉄道は、解決

策として鉄道の電化に着手し、昭和23年、弘前（尾上）間に本県初となる電車が登場。さらに昭和25年、尾上（黒石）間の新路線が開通したことでの弘前市と黒石市との行き来が格段に便利になったといわれています。

一方、昭和24年に設立された弘前電気鉄道は、3年後の昭和27年に市内2路線目となる私鉄として、弘前市を中心部と大鰐町を結ぶ大鰐線を開業しました。しかし、バス路線が競合していたこともあり、経営不振が続いた弘前電気鉄道は、昭和45年、経営権を弘南鉄道に譲渡することになりました。

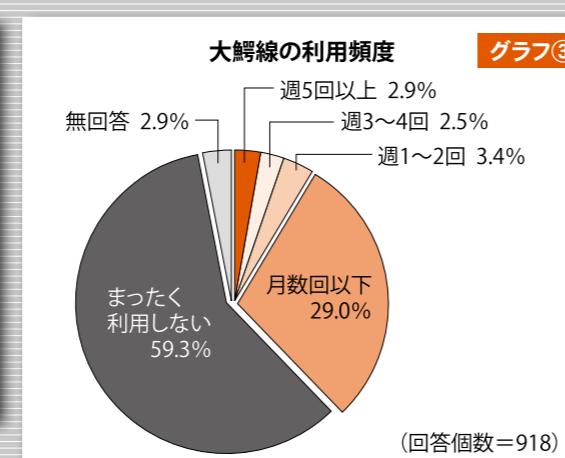
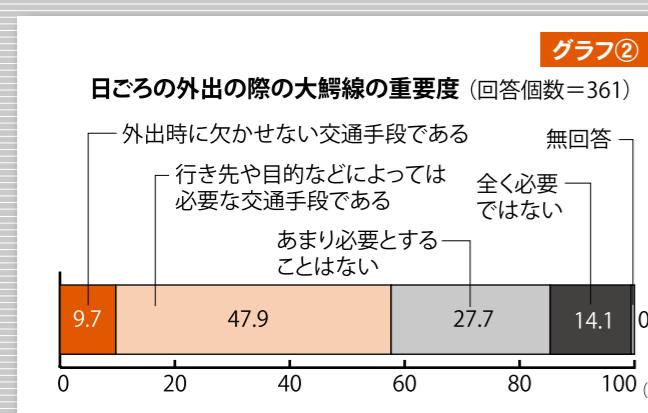
こうして弘南鉄道は今日に至るまで、弘南線（弘前（黒石）と大鰐（中央弘前（大鰐）の2つの路線）の運行を維持し、住民の生活を支えてきました。それは単に交通手段としてだけではなく、弘前市と周辺市町村を結ぶ動脈として、地域の発展に

利用者の減少・減便や値上げ・利便性の低下・利用者の減少といった負の連鎖から脱却するために、今の状況、今後の課題をアンケートの結果から探っています。

弘南鉄道の利用者数は、昭和40年代前半をピークに大きく減少しています。主な要因としては、高度経済成長に伴う自家用車の普及や、少子化が進んできることによる利用者の減少が挙げられ、時代の流れとともに減少してきたことは言うまでもありません。

弘南線・大鰐線とともに減少するなかで、特に大鰐線は、10年前と比べて利用者が半分以下になるなど、近年、大きく落ち込んでいます（グラフ①）。市では昨年12月、鉄道の利用実態や満足度・ニーズを把握し、今後の地方鉄道の活用や改善に向けた方向性を探るために、大鰐線の沿線住民を対象にアンケートを実施しました。

利用者の減少・減便や値上げ・利便性の低下・利用者の減少といった負の連鎖から脱却するために、今の状況、今後の課題をアンケートの結果から探っています。



Traincast

トレンキャスト 業務開始!!

市では、地域の大切な交通手段である弘南鉄道大鷗線を市民の足として確保し、将来へつないでいくため、「弘南鉄道大鷗線魅力向上事業」を実施しています。本事業は、利用しやすく親しみのある駅・車両づくりなど、利用環境の向上を通じて大鷗線の魅力を高め、その魅力をPRし利用を促進することによって、同線の活性化とサービス向上を図るもので

去る10月7日、本事業の一つとして、鉄道利用者に心地よい時間と空間を楽しんでもらうための演出をする、新しいスタイルの乗務員「トレンキャスト」の乗務が開始されました。業務内容は、荷物運びの補助や列車内への誘導、車内・駅舎の清掃や観光PRなどで、大鷗線の魅力を最大限に引き出せるよう、さまざまな企画に取り組んでいきます。

地域と鉄道を結ぶ懸け橋として、皆さんと一緒に大鷗線を盛り上げていきたいと思いつますので、トレンキャストが乗務する電車を、ぜひご利用ください。

△乗務時間 おおむね午前9時～午後3時まで（土・日曜日、祝日は午後4時半まで）

△弘南鉄道大鷗線魅力向上事業についての問い合わせ先 企画課地域振興担当（☎ 40・7021）

※大鷗線の利用や、トレンキャストの詳しい乗務内容については、弘南鉄道（☎ 44・3136）へ。



みんなで利用すれば
大きな変化につながります！

沿線住民一人一人が、年間3往復、今より利用者は1・4倍に！

現在の利用状況や必要性について3ページで説明した通りですが、一方で、将来の生活を考えた場合の必要性では、約6割の世帯が大鷗線が必要と回答し、必要ないとする世帯は1割程度でした（グラフ④）。しかし、「将来必要である」と答えた人の現在の利用頻度を集計したところ、週1回以上利用している人は、その2割未満でした（グラフ⑤）。これらの結果から、現在は大鷗線をほとんど利用していないものの、将来的には必要だと考

いう実態が明らかとなりました。将来の自分の生活スタイルや環境の変化を考えたとき、「何らかの理由で車を運転できなくなつたら…」などといった不安を抱いている人も多いのではないかでしょうか。

「なくなつてから後悔」では遅すぎる

人口減少が進む中で、みんなが車だけを利用し、公共交通を全く利用しない状況が続

くと、今後、大鷗線をはじめとする公共交通を維持することは極めて難しくなります。グラフ⑥を見ても分かる通り、自分専用の車や家族共有の車を持ついると答えた世帯は約6割に上ります。市街地の拡大や大型集客施設の郊外化などにあわせ、自動車が1人1台の時代になりつつあることは間違ひありません。

確かに自動車は便利な乗り物で、「なぜわざわざ鉄道を

利用しなければいけないのか」と考える人も多いかと思います。しかし皆さんは「将来、絶対に鉄道を利用しない」と言い切れるでしょうか。なくなつてから、「もっと利用しておけばよかった」と後悔しても遅いのです。

当市の冬は積雪量が多く、

道幅も狭くなるため、交通渋滞も頻繁に発生します。また、

それに合わせて交通事故も多

発します。しかし鉄道はそれ

らの心配がほとんどなく、定

時性に優れた安全で便利な乗

り物といえます。

高齢などの理由で車を運転できなくなつたとき、代わり

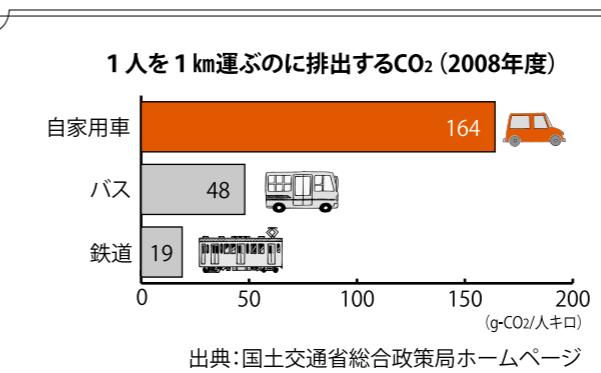
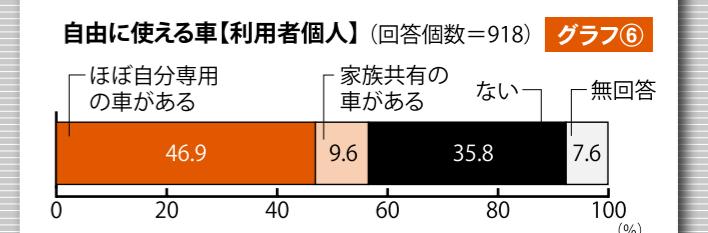
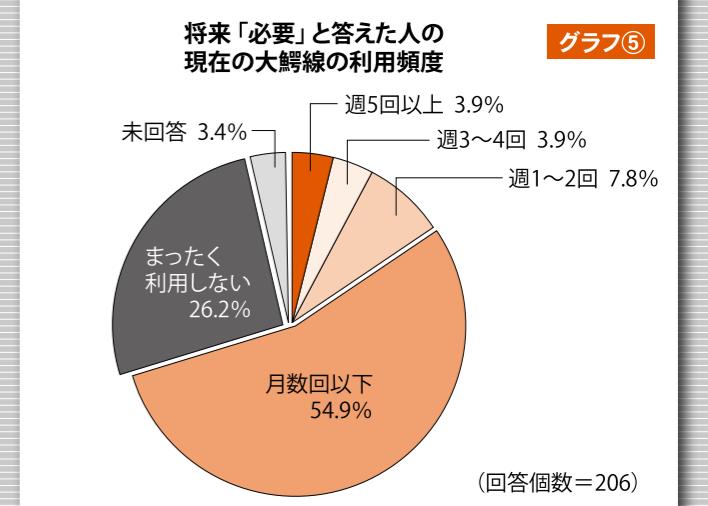
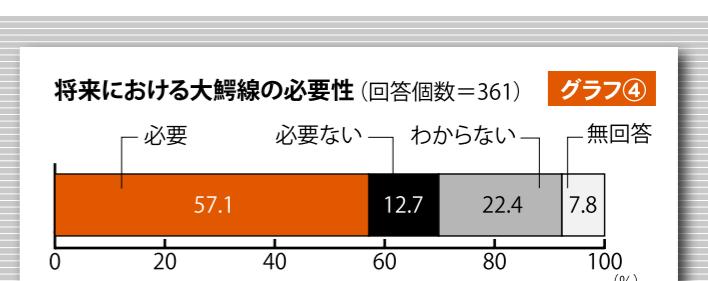
となる交通手段があるという

ことは非常に心強いものでは

ないでしょうか。

将来につなぐために 大鷗線を

大鷗線を存続していくためには、みんなで少しずつでも、普段から利用することが大事になつてきます。



鉄道は、1人を1km運ぶときに排出するCO₂量が、自家用車の9分の1程度と、環境にも優しい乗り物です。たまには気分を変えて鉄道などの公共交通を利用してみませんか。一人一人意識して環境を守つていくことへつながります。

環境に優しい生活を



現在、大鷗線各駅の周辺（おおむね800m圏内）には、約4万人の市民が暮らしています。例えばこの市民一人一人が、年間3往復、今より多く利用するだけで、大鷗線の利用者は現状の約1・4倍になります。このような小さく利用することも、大鷗線の将来は大きく変わってくるのです。もちろん、周辺の住民だけではなく、市民全員が公共交通の存続に取り組むことが重要であることは言うまでもありません。

自動車をやめて、毎日公共交通を利用することは難しいことかもしれません。しかし、年間のわずか数日と考えれば、気軽に利用することもで

きるのではないか。鉄道は、単に人や物を運ぶ生活手段としてだけではなく、観光やまちづくり、環境、文化、教育など、さまざまな面で大きな役割を担っている地域の財産です。そのため、地域との関係次第で活気づいたり廃れたりするものです。

事業者である弘南鉄道が、サービスの改善などをを行い、魅力のある大鷗線を作り上げていくためにあらゆる努力を

していることはもちろんのことですが、地域住民が「地域の財産である大鷗線を自分たちの手で守り育していく」という意識を持ち、鉄道との良い関係を築いていくこともまた、大変重要なことです。車と公共交通を上手に使い分けることは、それほど難しいことではありません。まずは半年に1回でも、みんなで公共交通を利用してみましょう。それは必ず地域の財産を未来へつなぎつかけとなるはずです。

公共交通の利用は、将来の自分や家族への投資であり、将来の地域への投資なのであります。それは必ず地域の財産を未来へつなぎつかけとなるはずです。

△問い合わせ先 企画課地域振興担当（☎ 40・7021）※弘南鉄道の利用については、弘南鉄道（☎ 44・3136）へ。

いただいたご意見・ご提案

八戸・黒石・十和田、今回から青森も参加が決定していますが、B級グルメに弘前からも『けの汁』など、何か挑戦できるものがあれば良いと思いませんか？市に観光客を呼び寄せ、活気づけるひとつの手段として！

市の回答

わたしの
アイデア
ポスト

「わたしのアイデアポスト」は、市の広聴事業のひとつとして、市政に関するご提案やご意見を多くの皆さんからお伺いし、市政運営に生かすことを目的に実施しています。

現在、市役所や岩木・相馬総合支所、各出張所などにポストを設置していますので、備え付けてある用紙に提案などを記載して投書してください。また、インターネットやファクス、郵送でも受け付けています。

■わたしのアイデアポストについての問い合わせ先 広報広聴課広聴係（〒036・8551、上白銀町1の1、市役所2階、窓口258、☎35・1194、ファクス35・0080）

B級グルメについては、具体的な定義が定められていないものの、「B-1グランプリ」といったB級グルメの祭典や各種メディアにより度々、食の話題として取り上げられており、町おこしの材料としても注目されてきていることから、特定の地域のみで浸透している料理である、いわゆるご当地グルメの一つとして、地域の魅力となる重要な要素であると考えています。

最近、この津軽地域でお総菜や酒のつまみとして愛されてきた「イカメンチ」を、地元に定着したご当地グルメとしてブランド化を図り、その魅力を全国に発信しようとする取り組みが動き出しました。この取り組みの実施主体となるグループ「弘前いがめんち食べるべ会」は、現在、B級グルメとしての方向性も含めて、今後の展開について慎重に検討しながら、情報収集、調査の活動を続けており、市としても、積極的に協力しているところです。

また、B級グルメではありませんが、方言である「津軽弁」を弁当の総称としてブランド化し、津軽のおいしい食を弁当形式で提供し、地域の活性化へつなげていこうとする「駅弁・空弁・津軽弁プロジェクト」の取り組みもあり、平成22年4月21日から販売をスタートし、津軽・弘前の名物となりうる弁当として10事業者19種類が弘前駅自由通路などで販売されています。

ご当地グルメとしては、来春、桜が満開の弘前公園を舞台として津軽伝統の食「津軽そば」が紹介された小説「津軽百年食堂」の映画が公開予定となっており、津軽の食をPRする絶好の機会となると考えています。このほかにも、生産量日本一を誇るりんごのまち弘前のスイーツ「アップルパイ」や、ご当地サイダー、ご当地アイスなど、これまで地元で愛され続けてきた、いわゆるご当地グルメが、当市をはじめとする津軽地域には数多くあることから、市としては、B級という言葉にとらわれず、さまざまな機会をとらえて、津軽の食をPRしながら、弘前の魅力の発信に努めていきたいと考えています。



男女 共同参画 をすすめよう

vol. 5

市では、男女共同参画社会推進のために各種事業を実施しており、去る10月2日、「女性の力が地域を守る～輝くあなたになるために～」と題したセミナーを開催し、講演とパネルディスカッションを行いました。

講演ではJA全国女性組織協議会会長の佐藤あき子さん（弘前市在住）が講師を務め、とかく男性社会といわれる農業の現場で活動できたのは、仲間同士で助け合い、前に進むことでさまざまな困難を乗り越えてきたからだと述べました。また、これからは女性の感性や知恵を生かして活動することが大切であり、男女共同参画で地域に貢献できるような女性が多く出ることで、地域も明るくなることを訴えていました。

講演に続き、佐藤さんをコーディネーターとして行われた葛西市長との意見交換会には、ViCウーマン・ヒロサキ監事の佐藤芳子さんと、サンフェスティンカワ友の会会長の永井久美子さんが参加しました。

最初に葛西市長が、主産業である農業振興の施策や、農業女性の意見反映と地位向上に向けた取り組みについて説明したのに対し、佐藤芳子さんが、東京での物産販売で、女性の感性を生かした売り方で完売したことや、東京に弘前の観光案内所や都会の消費者との交流の場になるような「弘前の東京支店」が必要ではないかと提案しました。また、永井さんは、市の産直マルシェ事業などの直売活動に取り組むなかで、友の会会員の高齢化の問題や規格外品の販売先確保の必要性について述べました。これを受けた葛西市長は、「弘前の東京支店」は経費的な問題もあり実現は難しいものの、10月から東京に職員を2人常駐させて、観光面からアプローチをし、今後は物産にも波及させたいことや、産直の都市間交流についての考えを示しました。その後も、会場に集った参加者からさまざまな意見が出されるなど、議論は大いに盛り上がりました。

今回のセミナーは、農業を通じた地域おこしの可能性や、農業に関わる女性から見た男女共同参画社会の必要性を考える機会となったのではないでしょうか。

■担当 市民参画センター（元寺町、☎31・2500）

決定
「アップル大橋」に

▽問い合わせ先 市土木課（☎40・5105）／中南地域県民局地域整備部道路施設課（☎32・0800）

▽命名者 小田桐富美子さん（大沢、鈴木登さん（石川）、尾崎克江さん（山崎）、福士哲郎さん（平川市柏木町）、成田瑛飛さん（尾上総合高校）、高杉和宏さん（尾上総合高校）

と期待されています。

県では平成15年度から、石川地区と平川市大坊地区を結ぶ、平川にかかる203mの橋の整備を進めています。5月に橋の名称を募集したところ、県内外から117件の応募があります。この生産地であることや、アップルロードにつながる橋であることが由来となっており、市民の皆さんに親しみと愛着をもつてもらえる名前となりたいと思います。たくさんのご応募ありがとうございました。

「アップル大橋」は、地元がりんごの生産地であることや、アップルロードにつながる橋であることが由来となっており、市民の皆さんに親しみと愛着をもつてもらえる名前となりたいと思います。たくさんのご応募ありがとうございました。

完成後の「アップル大橋」は、弘前・平川両市を結ぶ広域環状道路として、大切な役割を担っていくものになります。

万が一、油が漏れても、決して中和剤や洗剤などは使わずに、速やかに環境保全課または消防本部にご連絡ください。

②燃料タンクの配管を除雪機などで傷つけないために、雪が積もつても配管の位置が分かるように目印を付ける

③燃料タンク内の減り具合が早いときや、燃料タンクの周囲で油のにおいがするときは、油が漏れていないか調べる

④燃料タンクの周りに防油堤を付ける

例年、燃料タンクの配管の破損やポリタンクなどに小分けにするときの不注意が原因で、灯油などを流出させる事故が多く発生しています。また、場合に油の流出事故は、河川や農業用排水路を汚染したり、上水道の取水が停止したりするなど大事故につながる恐れがあります。また、場合によつては、原因者が多額の費用を負担しなければならないこともあります。事故を未然に防ぐためにも、次のことを行いましょう。

①燃料タンクからポリタンクなどに小分けにするときは、最後までその場を離れない

②燃料タンクの配管を除雪機などで傷つけないために、雪が積もつても配管の位置が分かるように目印を付ける

③燃料タンク内の減り具合が早いときや、燃料タンクの周囲で油のにおいがするときは、油が漏れていないか調べる

④燃料タンクの周りに防油堤を付ける

注意

灯油などの流出事故

まちの話題を写真
で紹介します。



まちの話題

弘前写真館

— 10月22日～11月7日

弘前城 菊と紅葉まつり

10月22日から11月7日までの17日間、弘前公園内の弘前城植物園を主会場に、「弘前城菊と紅葉まつり」が開催されました。三の丸庭園に設けられた菊人形ゾーンでは、NHK大河ドラマで人気の「龍馬伝」の場面が再現され、訪れた人たちの目を楽しませていました。

また、まつり期間中に行われたイベントのうち、10月31日には「ねぷた囃子（ばやし）でギネスに挑戦」と銘打ち、来年の本番に向けたイベントが行われました。当日は409人が参加して、見事5分間のねぷた囃子演奏に成功。参加者は来年の4,000人での演奏に向けて、気勢を挙げていました。



▲豪華絢爛（けんらん）な菊人形を眺める市民



▶息の合ったお囃子を披露する参加者

— 11月3日・4日

新幹線開業1カ月前イベント &えきまえ市

東北新幹線新青森駅開業まで1カ月となった11月3日・4日の両日、JR弘前駅で記念イベントが開催されました。イベントでは、駅自由通路でコンサートやこぎん刺しなどの伝統工芸の実演・体験が行われたほか、「藩士のコーヒー」やホットアップルジュースが駅利用者などに振る舞われました。また、3日には開業イベントに合わせ、駅前公園で農産物の直売や「いがめんち」を販売する「えきまえ市」も行われ、悪天候にもかかわらず、お目当ての品を買い求める市民らでにぎわいました。



▲『珈琲の街ひろさき』をPRする「藩士のコーヒー」の振る舞い

◀弘前のご当地グルメ「いがめんち」の販売

たか丸くんが行く!!

弘前城築城400年祭のマスコットキャラクターとしておなじみの「たか丸くん」。積極的にイベントなどに参加して、400年祭のPR活動を行っています。



9/8 青森観光キャンペーン in 羽田空港！

9月8日から10日までの3日間、羽田空港で行われた青森県のPRイベントに参加したたか丸くん。決め手くんやミスりんご青森、ミス桜グランプリと一緒に青森県をPRしました。また、青森県に関するアンケートに答えてくれた人たちにりんごジュースをプレゼントしたり、津軽三味線を演奏したりしながら青森県の魅力を伝えてきました。



9/11 世界遺産トーチランコンサート

9月11日、音楽家・ユネスコ平和芸術家の城之内ミサさんを中心とし、さまざまな国や地域で開催されている「世界遺産トーチランコンサート」が市民会館（下白銀町）で行われました。たか丸くんは、会場に足を運んで、コンサートを盛り上げるとともに、観客との交流を図りました。



9/12 カルチュアロード

9月12日に土手町で開催されたカルチュアロード。オープニングでは、青女子保育園の和太鼓演奏が披露され、たか丸くんも駆け付けて会場を盛り上げました。また、蓬莱広場のステージでは、花嵐桜組によるよさこい演舞やりんご娘のコンサート、沿道に設けられたテントでは、巨大アップルパイ作りなどが行われ、多くの人にぎわいました。



9/18 ウラヤスフェスティバル

9月18日・19日の2日間、千葉県浦安市で開催された「ウラヤスフェスティバル」では、JR新浦安駅前の物産コーナーで、りんごジュースや県産品の販売が行われ、多くの人にぎわいました。祭りでは、弘前ねぷたの運行も行われ、たか丸くんも参加。五所川原立佞武多や、さいたま竜神、大牟田大蛇山などの日本の火祭りの山車と競演しました。



2010 岩木文化祭

秋の休日、岩木文化の集大成「岩木文化祭」を開催します。「こども芸能発表」や「こども図書館まつり」、「芸能発表」などイベントが盛りだくさん!また、出店や食堂、喫茶コーナー、茶席、ふろしき市(フリーマーケット)などもあります。皆さんのおいでをお待ちしています。

△とき 11月20日(土)・21日(日)

△ところ 岩木文化センター「あそべーる」、中央公民館岩木館、岩木図書館(いずれも賀田1丁目)

△問い合わせ先 岩木文化祭運営委員会(中央公民館岩木館内、☎82・3214、ファックス82・3426)

開催日	イベント	内 容	と き/ところ
19日	前夜祭 ダンスのタペ	あそべーるがダンスホールに!あなたも社交ダンスに参加しませんか?	午後7時~9時/あそべーるホール
20日	開会式	式典、鏡割り、振る舞いなど、津軽中学校吹奏楽部の演奏があります。	午前10時~11時/あそべーるホール
	こども芸能発表	園児のかわいらしい踊りや、小学生の吹奏楽・演劇など、多彩なプログラムをお楽しみください。	午後1時~4時/あそべーるホール
21日	芸能発表	日ごろ練習した歌や踊りなど、多彩な芸が次から次へ。	午前9時~午後3時半/あそべーるホール
20日・21日	ふろしき市	ふろしき1枚分のフリーマーケット。掘り出し物に出会えるかも。	20日=午前10時半~午後3時、21日=午前9時~午後3時/あそべーるホワイエ
	作品展示	絵画、書道、写真などの展示や伝統文化の体験コーナー、マジックショーやあります。	20日=午前10時半~午後3時、21日=午前9時~午後3時/中央公民館岩木館
こども図書館まつり	劇、紙芝居、読み聞かせ、手づくり絵本など。楽しい子どもの居場所です!	20日=午後1時~4時、21日=午前9時~午後3時/岩木図書館、あそべーるミニシアター	
出店コーナー	おでん、フランクフルト、ラーメン、りんご、野菜のほか、喫茶・食堂コーナーもあります。	20日=午前10時半~午後3時、21日=午前9時~午後3時/あそべーるミセ・駐車場	
スタンプラリー	館内でスタンプを集め抽選会に参加しよう。	20日=午前10時半~午後3時、21日=午前9時~午後3時/中央公民館岩木館、あそべーる	

親子で作ろう手作り絵本	
△対象	小学生とその保護者
△参加料	1組300円
△講師	ささやすゆきさん
△絵本作家	岩木文化センター「あそべーる」(賀田1丁目)
△問い合わせ先	10組(先着順)
△参加料	82・5150

△問い合わせ・申込先	12月3日までに、北辰学区高杉ふれあいセンター(☎95・3601)へ。
△とき	11月20日の午後1時~4時と21日の午前9時~午後3時

水泳教室

△問い合わせ・申込先	12月3日までに、北辰学区高杉ふれあいセンター(☎95・3601)へ。
△対象	小学生とその保護者
△参加料	1組300円
△講師	ささやすゆきさん
△絵本作家	岩木文化センター「あそべーる」(賀田1丁目)
△問い合わせ・申込先	10組(先着順)
△参加料	82・5150

△問い合わせ・申込先	12月3日までに、北辰学区高杉ふれあいセンター(☎95・3601)へ。
△とき	12月6日~22日の毎週月・水曜日、午前10時~午後4時
△とき	12月5日の午前9時半~午後4時10分と6日の午前10時~午後4時半
△とき	12月5日の午前9時半~午後4時10分と6日の午前10時~午後4時半
△とき	12月5日の午前9時半~午後4時10分と6日の午前10時~午後4時半

△問い合わせ・申込先	12月3日までに、北辰学区高杉ふれあいセンター(☎95・3601)へ。
△対象	小学生とその保護者
△参加料	1組300円
△講師	ささやすゆきさん
△絵本作家	岩木文化センター「あそべーる」(賀田1丁目)
△問い合わせ・申込先	10組(先着順)
△参加料	82・5150

※当日の申し込みも可。

親子で作ろう手作り絵本

△問い合わせ・申込先	12月3日までに、北辰学区高杉ふれあいセンター(☎95・3601)へ。
△対象	小学生とその保護者
△参加料	1組300円
△講師	ささやすゆきさん
△絵本作家	岩木文化センター「あそべーる」(賀田1丁目)
△問い合わせ・申込先	10組(先着順)
△参加料	82・5150

△問い合わせ・申込先	12月3日までに、北辰学区高杉ふれあいセンター(☎95・3601)へ。
△対象	小学生とその保護者
△参加料	1組300円
△講師	ささやすゆきさん
△絵本作家	岩木文化センター「あそべーる」(賀田1丁目)
△問い合わせ・申込先	10組(先着順)
△参加料	82・5150

△問い合わせ・申込先	12月3日までに、北辰学区高杉ふれあいセンター(☎95・3601)へ。
△対象	小学生とその保護者
△参加料	1組300円
△講師	ささやすゆきさん
△絵本作家	岩木文化センター「あそべーる」(賀田1丁目)
△問い合わせ・申込先	10組(先着順)
△参加料	82・5150

△問い合わせ・申込先	12月3日までに、北辰学区高杉ふれあいセンター(☎95・3601)へ。
△対象	小学生とその保護者
△参加料	1組300円
△講師	ささやすゆきさん
△絵本作家	岩木文化センター「あそべーる」(賀田1丁目)
△問い合わせ・申込先	10組(先着順)
△参加料	82・5150

△問い合わせ・申込先	12月3日までに、北辰学区高杉ふれあいセンター(☎95・3601)へ。
△対象	小学生とその保護者
△参加料	1組300円
△講師	ささやすゆきさん
△絵本作家	岩木文化センター「あそべーる」(賀田1丁目)
△問い合わせ・申込先	10組(先着順)
△参加料	82・5150

※当日の申し込みも可。

親子で作ろう手作り絵本

△問い合わせ・申込先	12月3日までに、北辰学区高杉ふれあいセンター(☎95・3601)へ。
△対象	小学生とその保護者
△参加料	1組300円
△講師	ささやすゆきさん
△絵本作家	岩木文化センター「あそべーる」(賀田1丁目)
△問い合わせ・申込先	10組(先着順)
△参加料	82・5150

△問い合わせ・申込先	12月3日までに、北辰学区高杉ふれあいセンター(☎95・3601)へ。
△対象	小学生とその保護者
△参加料	1組300円
△講師	ささやすゆきさん
△絵本作家	岩木文化センター「あそべーる」(賀田1丁目)
△問い合わせ・申込先	10組(先着順)
△参加料	82・5150

△問い合わせ・申込先	12月3日までに、北辰学区高杉ふれあいセンター(☎95・3601)へ。

<tbl_r cells="2"

